

サッカーの第96回全国高校選手権県大会最終日は12日、諫早市のトランスコスモスタジアム長崎で決勝が行われ、長崎総合科学大付が長崎日大に延長戦の末、2-1で競り勝ち、2年連続5度目の優勝を果たした。長崎総合科学大付は、長崎日大に延長戦の末、2-1で競り勝ち、2年連続5度目の優勝を果たした。長崎総合科学大付は、長崎日大に延長戦の末、2-1で競り勝ち、2年連続5度目の優勝を果たした。

（12月30日開幕・首都圏）の出場権を獲得。組み合わせ抽選会は20日に東京で行われる。6月の県高総体決勝と同一カード。長崎総合科学大付は前半3分、FW中村の先制点で主導権を握った。後半は長崎日大が猛攻を仕掛け、残り5分でFW

石見がPKを決めて追いついた。延長戦は一進一退の攻防を繰り返した。後半10分、長崎総合科学大付のDF田中が混戦から勝ち越し点を決めた。大会得点王は、6ゴールを挙げた長崎総合科学大付のFW安藤瑞季が輝いた。（中島崇雄）

▽決勝

長崎総合科学大付	2	延	0	1
長崎日大	1	0	1	0
科学大付	1	0	0	0
長崎日大	0	0	1	0

▽得点者【総】中村、田中【日】石見

【評】長崎総合科学大付が序盤と終盤に混戦から得点。長崎日大に競り勝った。長崎総合科学大付は早い寄せでボールを奪うとFW西原、安藤へ縦パスを供給。FW荒木、中村が絡んでゴールへ迫った。後半は中盤にスベ

【長崎日大】浦川美穂、田村口武見、川、高比良の突破から好機を演出。後半は相手より5本多いシュート7本を放った。土壇場で延長戦へ持ち込んだが、試合終了間際に一瞬の隙を突かれた。

果敢に攻めるも惜敗

長崎日大



○：6月の県高総体決勝で長崎日大は、長崎総合科学大付に延長戦の末、2-1で惜敗し、ちがいでやられていた。特に長崎日大。亀田監督は立悪いとこもなかったし、

よく頑張っていた」と選手たちをねぎらった。0-1を迎えた後半、ゴールに向かってサッカーをしていこう」という亀田監督の指示通り、攻めの時間が長くなった。細かいパス回しから何度もチャンスメ

長崎総合科学大付 競り勝ちV2

PK戦へ突入か。そんな雰囲気会場に漂っていた延長後半10分、ゴール前の混戦で長崎日大のDFとGKが交錯。こぼれ球は、長崎総合科学大付のDF田中の前に転がった。「みんながつかないでくれた。思い切り振り抜こう」。主将の劇的な今大会初得点が、チームをV2へ導いた。6月の県高総体決勝は1点差で競り勝った。「今回も接戦になる」。田中の予想通り、簡単に勝たせてはくれなかった。前半3分にFW中村のミドルシュートで先制し、ながら追加点が奪えない。モンゴルで8日まで開かれたU-19（19歳以下）アジア選手権予選から帰国直後のFW安藤も「万全ではなかった」。後半は連動してパスをつなぎ、裏

ハイライト

へ抜け出してくる相手の攻撃に脅かされた。残り5分でPKを決められて同点、延長戦も互角の展開だった。勝敗が決すると、選手たちはほっとした表情を浮かべた。安藤は「苦しい試合を勝ち切れたのはよかった。長崎の代表として、日大の分も背負っていく」と決意を新たにしていた。

夏の全国高校総体は準々決勝まで勝ち上がった。小嶺監督は「全国は横一線」とみている。田中は「課題はたくさんある。全国大会までに修正し、1個ずつ勝っていい日本一になりたい」。苦しんでつかんだ全国切符。反省も、ライバルの思いも力に変え、県勢14年ぶりの栄冠へ突き進む。（中島崇雄）

石見は「シュートまでの形が出せなかった」とうなだれた。ゲームキャプテンを務めたDF本田は「もうちょっとだったけど、最後は力だね、伏せられた。あとは後輩に託すしかない」と言葉振りを絞った。（湯村高大）

◆同・田中純平主将 先制した後のゲーム運びがまずかった。失点をして80分で勝ちきれなかったのが反省点。守備の部分で一人のサボりがチーム全体に出た。

ひと言

◆長崎総合科学大付・小嶺忠敏監督 イージーミスが多かった。日大さんの持ち味を全部発揮させてしまった。毎年地区予選というのが一番（難しい）。これに乗って子どもたちも強くなる。

長崎日大に2-1 延長後半 主将の一発



【決勝】長崎総合科学大付（左から2人目）がシュートを決め、喜ぶ選手たち。 諫早市、トランスコスモスタジアム長崎（即行優志撮影）

【決勝】長崎総合科学大付（左から2人目）がシュートを決め、喜ぶ選手たち。 諫早市、トランスコスモスタジアム長崎（即行優志撮影）